

『おこしやす』京の五花街を巡る(京都)

梅雨に入り損ねている近畿地方。この日も曇り時々晴れの燦歩日和です。
JR嵯峨野線(山陰本線)円町(えんまち)駅に10時集合。
参加者は、途中合流・離脱を含め、男性15名、女性7名でした。
駅前の植え込みでは、泰山木が大きな花を開いていました。



京には5カ所の花街があるとか。日頃縁なき衆生ではありますが、せめて町の風情だけでも味わおうと燦歩する事になったのです。

五花街とは、回る順に上七軒(かみしちけん、京都の年配の方はかみひちけんと発音するそうです)、先斗町(ぼんとちょう)、祇園東(ぎおんひがし)、祇園甲部(ぎおんこうぶ)、そして宮川町です。円町駅から北に向かいます。

まずは、江戸時代半ばに開かれた臨済宗妙心寺派のお寺「法輪寺」、通称「だるま寺」です。
諸願成就を願って奉納された達磨およそ八千体が所狭しと祀られています。一番前の大きいだるまさんの懐が、賽銭入れになっていました。

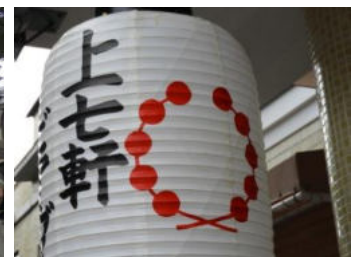


なだらかな坂を北に進み、学問の神様菅原道真を祀る、北野天満宮にお参りします。七夕飾りが、微風に揺れていました。

上七軒の花街はその東側に建ち並んでいます。
室町時代、北野天満宮の再建の際に残った材を使って7軒の茶店を建てた。それが由来だそうです。豊臣秀吉は1587(天正15)年、この天満宮と周辺で参会者千名の大茶会を開きます。その折茶店から団子を献上したところ大いに誉められたという事で、以来「五つ団子」がこの町の紋章になっています。



北野天満宮の東側御前通(おんまえどおり)の閑静な街並みの中ほどに、上七軒歌舞練場(かぶれんじょう)があります。いささか耳なれない言葉ですが、芸妓さん舞妓さんの歌舞音曲の練習場で、京の花街にはそれぞれ置かれています。劇場も兼ねていて、こちらでは1952年以来、毎年3月から4月に「北野をどり」で、修練の成果が披露されています。



上七軒の花街は、また、すぐ隣の織物の町西陣との結びつきで、繁栄を極めて来ました。
町家の並ぶただ中の遺跡です。応仁の乱の際、西軍の将山名宗全の屋敷のあった所で、この一帯が「西陣」と呼ばれることとなります。



西陣と云えば、豪華な絹織物の代名詞。応仁の乱の間、堺などに逃れていた織物業者たちは、中国の明伝来の技術も習得し、復帰後技能を磨いて復興に努め、それが京都の織物の隆盛の源となったのです。近くの西陣織会館では、西陣織の展示、織り作業の実演が行われていました。

京都の街中は、見どころが続いてなかなか行程が進みませんが、見逃すわけには行きません。すぐお隣の清明神社（せいめいじんじゃ）です。鳥居の扁額の紋章は、魔除けの呪符「五芒星（ごぼうせい）」です。

陰陽師（おんみょうじ）安倍の清明（921～1005）は、夢枕獏の小説以来人気上昇、フィギュアスケートの羽生結弦選手の演目「SEIMEI」で、すっかりポピュラーになりました。

清明神社は、今や若い女性人気のパワースポットです。

安倍清明はその超能力の故に、一条天皇の病回復の物語、狐の物語、鬼の物語等々、様々な逸話に彩られています。一条天皇は、清明は稻荷神の生まれ変わりであるとして、清明の没後間もなく1007（寛弘4）年、一条戻橋のたもとに清明を祀る神社を創建したのです。



京都御苑で昼食です。この日は、迎賓館を見学する予定でしたが、申込者多数で叶わず、昼食後に御所を見学する事になりました。皇宮警察による手荷物検査を経て御所に入ります。承明門の前で全員写真、奥が正殿の紫宸殿です。



平安京の御所は、794年の遷都の頃には、現在より1.7kmほど西の所に在りました。

（大きな通りの名前で云えば、今の千本丸太町あたりです）その後火災で焼失・再建を繰り返し、1227年の火災以降、元の位置での再建は行われず、摂政・関白など外戚の公家の館に仮御所を置く事になります。「里内裏」と呼ばれ、それも転々としますが、南北朝時代の光明天皇の時に、現在の地が里内裏となり、以来御所となります。現在の建物は、安政の造営で1855年までに再建されたものですから、明治維新の激動はの中で、繰り広げられた訳ですね。

御所から寺町通を南下します。

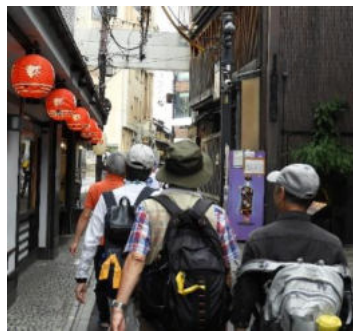
ここも素通りする訳には行きません。

下御霊神社（しものごりょうじんじゃ）、皮堂行願寺（こうどうぎょうがんじ）と並んでいます。



ちょうど夏越の祓（なごしのはらえ）の時季です。下御霊神神社では、茅の輪くぐりで半年分のケガレを落とし、この後の半年の健康と厄除けを祈願する事が出来ました。皮堂は西国三十三所の19番札所。この寺を始めた行円は、かつて鹿を殺生した非を悟り、その鹿の皮を常に身につけていたことから、皮聖、皮聖人などと呼ばれます。そして寺の名も革堂と呼ばれるようになったのだそうです。蓮の花が見ごろでした。

本能寺に入ります。日蓮宗の大きなお寺です。本能寺と云うと、どうしても「本能寺の変」を思い浮かべてしまいます。ましてや、来年の大河ドラマは明智光秀を主人公にした「麒麟がくる」です。境内に織田信長の墓所もあります。ただ、1582（天正10）年6月光秀が織田信長を襲った本能寺は、ここではありません。西に1km以上離れた所で、現在地は、その10年後、豊臣秀吉の京都改造で、移転して来た所なのです。



先斗町（ぼんとちょう）に入りました。先斗町の紋章は、鴨川に舞い飛ぶ「千鳥」です。通りは一筋のまことに細い町です。肩が触れ合う程の狭さが、先斗町情緒なのでしょう。町並みのその奥はもう鴨川です。

先斗町を抜けて四条大橋に出ました。この時点で既に15時を過ぎており、燦歩会はこの日、鴨川を越すことは出来ずに解散。残りの3つの花街は、また次の機会のお楽しみという事になりました。

* * *

相変わらずの補足・蛇足で失礼します。

その1 京都御苑の事

京都御苑は、今広々とした庭園が広がっていますが、明治になるまで、御所（禁裏）の周囲、図の朱線内に、公家の屋敷（青色）がぎっしりと建ち並んでいました。1858（慶応4）年の図です。（「京都市の歴史」）幕末には公家数も増えて、御苑外にはみ出した屋敷も見られます。ちなみに藤原定家以来の貴重な文化財を伝えてきた冷泉家は、上端の青矢印の所に今もあります。また、一番南の端、岩倉（緑矢印）とあるのは、岩倉具視の屋敷でしょうか？

作家大仏次郎は「天皇の世紀」の冒頭でこう記しています。

「（禁裏の外側）今日御所の御苑となっている四方の土地が、十世紀に近い代々を御所に仕えてきた公卿殿上人の屋敷で埋まっていた。これにさらに一重、今日も在る石垣をめぐらせ、外の町と通じる出入りの門を九つに限ってあった。… 外の町の辻を吹く風は九門から奥に入りにくい。」

外部と遮断された公家町の空気、そこに尊王攘夷、維新の風が、暴風となって吹き込むのです。



その2 本能寺城の事

明智光秀が織田信長を襲った本能寺の跡は、今ではごく普通の市街地です。マンション建設などの際に、時折発掘調査が行われ、当時の様子が徐々に分かって来ています。周囲は堀（一部は幅4m）で囲まれ、内部にも堀・石垣があり、寺とは云っても要塞の様なものだったようです。だからこそ信長も、しばしば定宿として泊まったのでしょう。



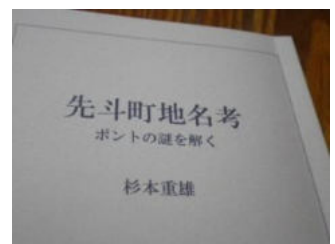
「本能寺城」というタイトルの発掘報告書もある程です。写真は発掘された軒丸瓦です。（京都市埋蔵文化財研究所リーフレット）字の右側（つくり）が「去」の様になっています。「能」の異体字で、一説には「ヒ」が二つ重なる「能」の字は、「ヒ＝火」に通じる為、「去」にしたのだとか。

その3 先斗町の事

お座敷小唄に「♪♪ 富士の高嶺に降る雪も、京都先斗町に降る雪も…」と唄われたのは1964年の事です。この町のことでいつも話題になるのは、「なぜポントチョウと呼ぶのか？」です。曰く、人家が鴨川の岸の先端に建ち並んで「先斗（さきばかり）」（「斗」の字はしばしば「はかり」とも読まれます）なので、「先端」を意味するポルトガル語「ポント」を宛てた。曰く、鴨川と高瀬川に挟まれて橋を渡らないと行けない所で、ポルトガル語の「橋＝ポンタ」を宛てた等々、諸説枚挙に暇なく、明快な答えはなかなかありません。

この町は、江戸幕府が1670（寛文10）年に鴨川を大普請した際に出来た町です。そこになぜポルトガル語の町名が付いたのか？

最近はこの本も出されています。大学でイスパニア語を学び、銀行員として19年間海外駐在を経験された方が、2015年に長年の研究成果をまとめたものです。この本によれば、「ポント」とは、当時流行していたポルトガル伝来のカルタ賭博の用語で、普通二度に分ける賭け金を、先に一気に賭ける事だということです。一発勝負というか、ハイリスク・ハイリターンなのでしょう。



「後がない＝先だけ＝先ばかり＝先斗＝ポント⇒先斗町」となったという説です。それにしても、なぜポルトガルのカルタなのか？ 「おいちよかぶ」と云えば、覚えのある方もいらっしゃるのでは？ 「オイチョ」はポルトガル語で「8」を意味するという説もあるようで、それほどに、ポルトガルのカルタが、人々の間に浸透していたという事でしょうか。

その4 長五郎餅の事

北野天神門前の河内屋長五郎が参拝客に振舞っていた羽二重餅。それを豊臣秀吉の北野大茶会に献上した所、殊の外喜ばれ、以来、北野の名物になったという事です。餡の小豆は「大納言」、餅はもち肌そのもの。まことに、典雅な風味で美味しく、ご馳走さまでした。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。(事前に予約が必要な場合もあります)

今後の予定は

- 7月28日(日) 日本遺産・生野銀山を訪ねる(兵庫) *青春18切符を利用
- 8月 暑さを避けて 休会
- 9月29・30日(日・月) ツアー 美ヶ原の自然を満喫
- 10月27日(日) びわ湖バレーを楽しむ(滋賀)
- 11月24日(日) 京都一周トレイル第3回 蹴上から銀閣寺前まで(京都)
- 12月15日(日) 納会(大阪)
- 1月26日(日) ちんちん電車に乗って住吉さんから堺の街を歩く(大阪)
- 2月23日(日) 西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策(大阪)
- 3月22日(日) 華岡青洲の里と粉河寺を訪ねる(和歌山) *青春18切符利用

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。(電話090-1484-4403)
一緒に気軽に楽しく歩きましょう。(写真・文 生島 幸弥)